

学ぼう！私たちの町の歴史



地図…白石町役場提供

ゆめさが大学 鹿島校7期生 作成

すこじょうあと
①須古城跡



須古城は、室町時代は在地領主平井氏の居城でしたが、16世紀末に12年間の戦いで龍造寺隆信の居城となりました。戦国時代、豊後の大友氏、薩摩の島津氏とともに肥前の龍造寺氏が九州三大名として支配していました。当時、現代の佐賀・長崎両県、福岡県の大半、熊本県の北半と大分県の一部を領有し、須古城は実質的にその首都となりました。主要域が東西570m・南北600mに及ぶ県内最大の平山城でした。城跡に石垣や庭園などが残っています。

ほうせんじ
②法泉寺



法泉寺は南北朝時代(14世紀後半)に建てられた古いお寺です。須古城主の龍造寺隆信により復興されています。龍造寺隆信に関する文化財が多くあります。本堂前には大仏像が安置されており高さ3mという九州でも珍しい大型の仏像です。正徳元年(1711)に京都東山の妙法院管理下の方広寺の仏師法橋弘順常安が製作しています。

うたがきこうえん
③歌垣公園



日本三大歌垣といわれる地は、常陸国の筑波山(茨城県つくば市)摂津国の歌垣山(大阪府能勢町)、肥前国の杵島山(佐賀県白石町)です。ここに歌垣の際に歌われた「杵島ぶり」を万葉仮名で書かれた大きな石碑が建てられています。歌垣とは春と秋の年2回、若い男女が神々の住まう山に集まり、短歌等で互いの思いを伝えあう古代の行事のことで、7万本が咲き乱れる春のつじは見事です。

みずどう あんぶくじ
④水堂さん(安福寺)

平安時代末期、高倉天皇が重い病気にかかった時、夢で水堂さん(安福寺)の霊水を飲めば治るといってお告げを受けました。天皇は肥前国杵島郡の領主平重盛(平清盛の長男)に命じ、水堂さんの霊水を献上させたところ病気が治ったといひ伝えがあります。毎年旧暦の4月15日から7月15日の90日間だけ湧き出す霊水です。この水を飲むと無病息災に効き目があるとされています。



りゅうぞうじたかのぶ いほてい
⑤陽興寺

龍造寺隆信の異母弟信周(のぶかね)が文禄3年(1594)に再建したとされ、須古鍋島家の菩提寺(先祖代々の墓)となっています。その初代領主龍造寺信周から15代茂朝までの領主夫妻や一族の墓等51基あります。代々須古城主であった平井一族の墓地もあります。この寺は県下で最も寺格の高い高伝寺(佐賀市本庄)等8寺のうちの1つです。須古士族の多くはこのお寺の檀家です。



いなさじんじや
⑥稲佐神社

杵島山の仏教文化の中心が稲佐神社と稲佐十六坊跡です。空海(弘法大師)により再興されたと言われています。江戸時代までは、稲佐神社と十六坊を総称して稲佐山泰平寺と呼ばれていました。参道途中の鳥居は建立年代の分かる肥前鳥居としては県内で最も古く、天正13年(1585)に建てられています。自然石を敷き詰めた参道は県内で最長です。境内には樹齢約600年の大楠2本(県天然記念物)があります。



よしむらてんまんぐう
⑦吉村天満宮



吉村天満宮は、全国的に有名な嬉野茶の基を開いた吉村新兵衛のゆかりの地です。吉村新兵衛(1603~1657年)は白石南郷(錦江・竜王地区)の大庄屋をつぎ、鍋島勝茂に仕え、長崎県東部地区の警備の任を命ぜられ嬉野へ移住しました。嬉野の不動山で茶樹を栽培し製法を研究し、全国有数の嬉野茶の基礎を築きました。不動山地区の人は吉村新兵衛をたたえる碑を建て、毎年「茶祖まつり」を続け「不動山の新兵衛さん」の歌をうたい遺徳をたたえています。

やさかじんじや
⑧八坂神社



八坂神社は格の高い神社で、白石地方一円で広く信仰されています。400年の歴史がある「夏まつり(秀津祇園)」が7月13日の前後3日間開催され大変にぎわいます。江戸時代初期、佐賀初代藩主鍋島勝茂が田植の労をねぎらうため山車(やま)を作らせ農民を励まされたのが始まりです。2月13日には玉替(たまがえ)祭が開催されます。

しゅうりんじ
⑨秀林寺



佐賀初代藩主鍋島勝茂の両親の供養所として1643年に建てられました。鍋島家菩提寺のひとつです。ここには「猫大明神」の祠(ほこら)があります。鍋島勝茂を主人公として白石の秀館(佐賀農業高校敷地内)で起こったとして言い伝えられています。白石化け猫騒動に関係した猫の供養的意味合いのものです。化け猫を退治した千布家では代々男子に恵まれず、7代目の当主が猫の絵を書いた掛軸をまつて供養を行ったところ、その後男子に恵まれたと言われています。

かいぞうじ
⑩海蔵寺

海蔵寺は1592~1596年(豊臣秀吉が名護屋城を築いた頃)に建てられました。曹洞宗のお寺ですが本尊観世音菩薩の左側に空海(弘法大師・真言宗の創始者)自作といわれる土像と木像が安置されています。海蔵寺には蛇退治用の赤土があります。昔マムシが住みつくことがあり、困った村民が空海にお願いして赤土を蒔いたところ姿を見せなくなったという伝えがあります。今もこの赤土はマムシや毒虫よけなどに使われています。



くわい こうぼうだいし じょうりくち
⑪空海(弘法大師)上陸地

空海(弘法大師)は修行をして、唐(中国)の国から大同元年(806)に有明海から堂免橋(現在の築切西分)の地に上陸したと言っています。上陸後稲佐山に登り、稲佐山泰平寺を再興し、村人からたいへん慕われました。空海が去ることを嘆き悲しんだ村人を哀しんで土像と木像の2つの像を自作しました。その像は海蔵寺に安置されています。



かにつきごもり
⑫蟹築籠

その昔、干拓したばかりの土地に田畑に害をなす蟹が多く住みつき稲を切るので、この土地を訪れた空海がお経をあげると、その蟹たちが1ヶ所に塚のように集まり死んだという言い伝えがあります。



ぶぜんぼう ごせんげん ど い あと
⑬豊前坊(五千間土居跡)



五千間土居は、江戸時代初期に造られた干拓堤防で、福富地域住ノ江から有明地域戸ヶ里の水門まで約9km(五千間)に及ぶ雄大な堤防でした。佐賀初代藩主鍋島勝茂の寛永年間(1624~1643)に成富兵庫茂安により築かれたと言われています。通称、松土居と呼ばれ土居上には松並木が散在していました。一部は現在国道444号線となっています。現在では牛屋東分豊前坊(谷神社)にわずかに残っている土居跡が住時の姿を思い起こさせるのみです。

しおどめかんのん
⑭潮塞観音



潮塞観音は、国道444号線沿いにあります。大正3年8月25日の台風により本堤防(五千間土居・国道444号線)により東の堤防が各所で決壊、海水が流れ込んで本堤防が決壊しようとしたときに、流れてきた一家屋のため難を逃れることができました。後日復旧作業中に2体の石仏(千手観音他)が見つかり、人々は被害の拡大を塞(ふさ)いでくれた事に感謝し、「潮塞観音」としてまつられています。

白石町は、杵島山の麓から豊穡な白石平野が広がりその先には海の幸に恵まれた有明海が続いています。

この白石町の長い歴史の歩みの中に、その先人たちの偉大な業績と文化が集積されています。

これを学んで成長し、郷土の発展に努力していきましょう。